

## 平成 25 年度 水資源機構営事業事後評価 技術検討会における質疑・意見と回答

番号	委員名	質 疑 ・ 意 見	技術検討会における回答	第 2 回技術検討会 回答	備 考
1	千頭委員	営農経費節減効果について、水稻（用水改良）の効果発生面積が事業計画（平成 13 年）の現況面積（5,616.8ha）となっている。		効果算定マニュアル上、更新整備にかかる効果発生面積については、事業なかりせば作付面積としています。これは、事業を実施しなかった場合、現況の作付面積が維持されていることを想定しており、作物生産効果、維持管理費節減効果と同様の考え方です。	評価結果書 P21
2	千家委員長	今後の課題については、他にもあるのではないか。 （現地調査時の営農者からの聞き取りについて、間断取水等の制限があり、水利権等の課題もあるのでは。）	今後、関係団体からの意見聴取結果をもとに、追記等を検討する。	『資料-5』、『資料-6』に反映	評価結果書 P10
3	荻野委員	水源地と受益地との交流が行われていることは評価できるが、今後とも継続して交流が行われることが大事である。	水源地と受益地との交流については、今後とも継続して実施する。	「今後の課題」、「総合評価」に追記	評価結果書 P10 基礎資料 P94,95